

平成18年度教育研究業績書

氏名 大谷麻美

最終学歴	2004年9月 お茶の水女子大学人間文化研究科国際日本学専攻博士後期課程修了
取得学位	博士（人文科学）
所属学会	大学英語教育学会、日本英語コミュニケーション学会、お茶の水女子大学日本語文化学研究会、The Asian Association of Teachers of English as a Foreign Language、The Japan Association for Language Teaching、Canadian Association for Japanese Language Education、International Pragmatics
現在の専門分野	社会言語学 英語教育
研究課題	日・英語の対人関係機能の研究

【研究上の特記事項】

- 2006年9月： 大学英語教育学会(JACET) 学術賞受賞  
（共著書 『ポライトネスと英教育』 ひつじ書房）
- 2006年10月： 平成18年～19年度科学研究費補助金（若手研究（スタートアップ））  
課題番号18820050
- 海外調査： カナダ、アメリカに3回 海外における日本語教育の問題に関する調査と  
アメリカ英語の謝罪と感謝に関する会話データの収集
- 国内調査： 東京、彦根において、アメリカ人の謝罪・感謝の英語会話のデータと  
フォローアップインタビューの収集。奈良において日本人の謝罪と感謝の  
日本語会話データとフォローアップインタビューの収集

【教育上の特記事項】

CALL機器を用いた実用英語のための授業を実践。  
日本語と英語のポライトネスの相違とその教授の有効性に関する調査結果にのっとり、円滑な対人関係を築くための英語会話ストラテジーの指導。

【社会的活動】

本学での日本実用英語検定試験（英検）の運営補助。（6月）

【学内活動】（学内職歴を含む）

奈良大学FD検討委員会委員、情報処理センター運営委員、庶務委員、海外語学研修委員、  
図書館委員、女子バレーボール部顧問

著書、学術論文等の名称	単著、共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（著書） English Lexicography in Japan	共著	2006年12月	大修館書店	本書の中の‘A Study of Pragmatic Information in English and Japanese Bilingual Dictionaries’の章を執筆。日本の英語辞書の問題点を指摘し、今後の辞書のあり方を問うた。
Cornerstone	共著	2007年1月	マクミランランゲージハウス	大学生のための初級英文法のテキスト。文法の解説とともに、学習ストラテジーなどについても言及した。（15章中8章執筆）

<p>(学術論文)</p> <p>‘Topic Shift by Japanese and Americans: A Cause of Misinterpretation in Intercultural Communication’</p>	<p>単著</p>	<p>2007年3月</p>	<p>『奈良大学紀要』第35号</p>	<p>日本人とアメリカ人のTopic shiftの行い方の違いを分析することで、異文化間コミュニケーションの誤解の一因を明らかにした。(69-83頁)</p>
<p>(学会発表)</p> <p>‘Topic Introduction and Topic Change by Canadian JFL Learners’</p> <p>「日本語母語話者の英語会話に見られる話題転換・話題提供 - 英語母語話者の日本語会話との対照より - 」</p>	<p>単</p> <p>単</p>	<p>2006年8月</p> <p>2006年10月</p>	<p>Canadian Association for Japanese Language Education 2006 Annual Conference</p> <p>日本英語コミュニケーション学会第15回年次大会 於：関西大学</p>	<p>カナダ人日本語学習者のTopic shiftの特徴を明らかにし、その問題点を指摘した。</p> <p>日本人英語母語話者の英語でのtopic shiftの特徴とその問題点を指摘。</p>
<p>(その他)</p> <p>「6月号『ポライトネスと英語教育』の書評を読んで」</p> <p>「英語コミュニケーション：聞き手と友好的対人関係を築くために」</p>	<p>共著</p> <p>単著</p>	<p>2006年8月</p> <p>2007年1月</p>	<p>『英語教育』Vol.55 No. 5</p> <p>『高等教育における英語授業の研究 授業実践事例を中心に』松柏社</p>	<p>拙書『ポライトネスと英語教育』の書評への反論</p> <p>英語のポライトネスを授業に導入した授業実践とその成果の報告(204 - 205頁)</p>